

◆ 表1 第2期計画の目標と具体的取組内容

参考資料1-1-2

※ 具体的取組内容の一部については、ボランティア等との協働作業による実施を検討。

中期目標	短期目標	実施場所	具体的取組内容	優先度	森林再生に資する効果	コスト	備考
① 大台ケ原を特徴づける森林生態系の保全	a. 緊急に保全が必要な箇所における対策の強化	西大台湧水地など多様性の高い箇所の高い箇	防鹿柵の設置	◎	高	高	・H21～H22までの設置箇所について検討済 ・次期5か年計画の検討
	b. 適剰な動物の影響や菌害の抑制による実生の成長促進	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	母樹への剥皮防止用ネットの設置 (トビヒ・ウラジロモミ等)	◎	高	中	・老朽化した剥皮防止用ネットの巻き直しの実施 ・剥皮防止用ネットの素材検討
② 森林の更新環境の回復	a. 林床のミヤコザサの抑制	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	防鹿柵外に自生するトビヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置	◎	高	低	・簡易柵は人力でも施工可能なものとする
		西大台林冠ギャップ地	パッチダイフェンス(小規模防鹿柵)の設置	△	中	高	・ミヤコザサ型植生、トビヒ・ミヤコザサ型植生、トビヒ・コガクサ型植生において、地表処理による菌害除去効果について把握しておく (H21調査中)
	c. 林床のミヤコザサの抑制	ウサギの食害が顕著な場所	防鹿柵内におけるウサギ侵入防止柵の設置 (防鹿柵内の倒木・根株周囲、植栽苗木周囲、ササ刈り等の地表処理実施箇所など)	△	中	低	・保護が必要な林冠ギャップ地の把握 ・人力でも施工可能な仕様の検討 ・歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮
		ミヤコザサ型林床	防鹿柵内におけるウサギの動態を把握しておく (パッチダイフェンスを実施する場合は、パッチダイフェンスのネットのスカート部分をメッシュの細かいものにする)	△	中	中	・防鹿柵内に設置し、ミヤコザサを枯死させるために試験的に実施
d. 実生の定着環境等森林更新に必要な適正な林床環境の明確化	東大台ミヤコザサ型林床の針葉樹林	倒木・根株の質的な評価の実施	◎	高	中	・シカによる破食を受けている防鹿柵外で試験的に実施 ・柵内と柵外を連続してササ刈りし、ササの衰退状況についてモニタリングする。	
			実証実験の実施による地表処理の効果の評価	○	中	低	・実生の発生・定着に適した十分な倒木・根株があれば地表処理は必要ない ・実生の発生・定着に適した倒木・根株の状態・性質を明らかにする。
			水環境の把握	○	中	中	・針葉樹林の更新環境を整えるには表層土除去(腐植層、ミヤコザサの根系の除去)が効果的である ・地表処理を行う場合はギャップ地や林縁で実施する ・水文調査の実施 ・水文調査では、近年の森林環境(森林の乾燥化等)を示すデータとして整理する。

中期目標	短期目標	実施場所	具体的取組内容	優先度	森林再生に資する効果	コスト	備考
③ 森林後退の抑制	e. 森林後退の場所以ける樹木減少の抑制	東大台の森林後退が進んでいる場所 ミヤコザサ型林床	母樹への剥皮防止用ネットの設置 (トウヒ・ウラジロモミ等) 防鹿柵外に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲に簡易柵を設置	◎	高	中	・ミヤコザサ型植生とトウヒ・ウラジロモミ型植生の境界部分の疎林地にて実施 ・H21に500本程度実施予定 ・剥皮防止用ネットの素材検討 ・簡易柵は人力でも施工可能なものとする
	f. 森林後退の場所以ける森林更新の場の保全		防鹿柵内に自生するトウヒ・ウラジロモミ等の実生・稚樹の周囲のササ刈りの実施 防鹿柵外に存在する倒木・根株の周囲に簡易柵を設置 防鹿柵内に存在する倒木・根株の周囲のササ刈りを実施	◎ ○ ○	高 高 高	低 低 低	・実生・稚樹の周囲の坪刈を実施 ・稚樹の成長に合わせたササ刈の継続期間を検討しておく ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・ギャップ地などに分布しており、実生・稚樹が生育しているものを対象として実施
	g. 森林後退の場所以ける森林更新の場の創出		岩礫地などの針葉樹の実生・稚樹の生育地に小規模防鹿柵を設置 防鹿柵内の岩礫地などの針葉樹の実生・稚樹の生育地に必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 表層土除去の実施	○ △	高 中	中 低	・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・既存の防鹿柵内でウサギの食害が顕著な場所が必要に応じて設置
	h. 森林への遷移に誘導するための手法の検討	東大台 ミヤコザサ 草地	全ての森林更新過程が損なわれた箇所(ミヤコザサ型植生)において、森林への遷移の誘導を図るためにコアとなる母樹群の形成を促すための試験的な植栽の実施 ※圃場トウヒ苗の利用	△ ◎	中 高	高 中	・針葉樹の更新の場として実施 ・A層(腐植を含んだ層)とミヤコザサの根系の除去程度にとどめる ・発芽した実生が定着できるようコアが早期に回復するような手法を検討する ・明るい箇所(ギャップ地や林縁)で実施 ・ミヤコザサの回復状況に応じてササ刈を実施
④ ミヤコザサ草地から森林への遷移							・植栽および植栽後の管理手法の検討 ・必要に応じてウサギの侵入防止柵を設置 ・植栽する苗木が不足する場合には新たな苗木の生産を検討 ・植栽する苗木の樹種の検討

◎：第2期計画期間で優先的に実施、○：第2期計画期間での実施、△：必要に応じて実施
 高：現存する母樹・後継樹等を保護することにより森林再生が期待されるもの
 中：後継樹の良好な生育環境を創出することにより森林再生が期待されるもの
 高：施工コストが高いと考えられるもの、中：施工コストがそれほど高くはないと考えられるもの、低：施工コストが低いと考えられるもの

第2期計画の短期目標における具体的取組内容

東大台

具体的取組内容	短期	実施場所	面積	実施手法	検討課題
1 自生するトウヒ、ウラジロモミ等の稚樹の保護・育成	b.e.	柵外 正木峠の南西側斜面 【ミヤコザサ型植生とトウヒ-ミヤコザサ型植生(植生タイプIとII)の境界部分の疎林地】	4ha	・自生稚樹の確認調査およびマーカーキング(樹高30cm以上) ・簡易な単木保護(ミヤコザサ生育地) ・稚樹の生育地に小規模防鹿柵を設置(ガレ地、水道などササが侵入しない場所)	・区画を区切りながら調査を進め、おおまかな配置を地図に示しておく。 ・マーカーキング資材は竹を使用し、長さを統一しておく。(稚樹の相対的な高さが把握できるため) ・稚樹保護の手法については自生稚樹の量を把握してから検討する。 ・倒木・根株上の稚樹については生育基質ごと保護する。
		柵内 防鹿柵No.5、6、16	—	・自生稚樹の確認調査およびマーカーキング(樹高50cm以上) ・稚樹の周りのササ刈りを実施	・ササ刈りの継続期間は3～5年程度とし、モニタリングを行いながら実施する。 ・必要に応じてワサザの侵入防止柵の設置の検討する。
2 母樹の単木保護	e.	ミヤコザサ型植生とトウヒ-ミヤコザサ型植生(植生タイプIとII)の境界部分の疎林地	—	・母樹への剥皮防止用ネットの設置 (平成21年度500本程度実施済:正木峠の南西側斜面)	・メタルネットは金属イオン等の影響があり、環境に負荷を与えるので、平成22年度以降は基本として樹脂ネットへと切り替える。 ・樹脂ネットの影響、施工性について評価しておく。 ・樹の広がりがり部分を考慮した幅で樹脂ネットを筒状に巻いて下におくような仕様にし、その幅からはみ出す根については、メタルネットを巻いておく。
		・駐車場から日出ヶ岳へ至る上道沿いの斜面上部 ・駐車場から山の家へ至る尾根 東大台の歩道沿い	—	・母樹への剥皮防止用ネットの設置	・既有地での単木保護の対応について県の協力を得る等検討する。
3 植栽の実施	h.	柵内 防鹿柵No.6及びNo.5は北側を含める	—	・老朽化した剥皮防止用ネットの巻き直しの実施 (現行のメタルネットは設置後10年程度が目安)	・歩道沿いに樹脂ネットを設置する場合は、環境および景観に配慮するように検討するとともに、看板などを設置し、利用者への周知を図る。
		柵外 柵No.6外の林縁部	—	・圃場トウヒ苗木を利用した試験的な植栽の実施 ・柵外では植栽した苗木に単木保護を実施	【植栽手法の検討について】 ・植栽手法については現地検討を行う。 ・苗木のサイズ合わせた植栽手法を検討する。 ・客土の利用について検討する。 ・一部は圃場に残すようにする。 ・配水池の柵内や車道法面などに自生する稚樹を苗木として利用することを検討する。 ・ボランティアとの協働作業についても検討する。 【植栽後の管理手法について】 ・自生稚樹の保護と同様に考える。

東大台

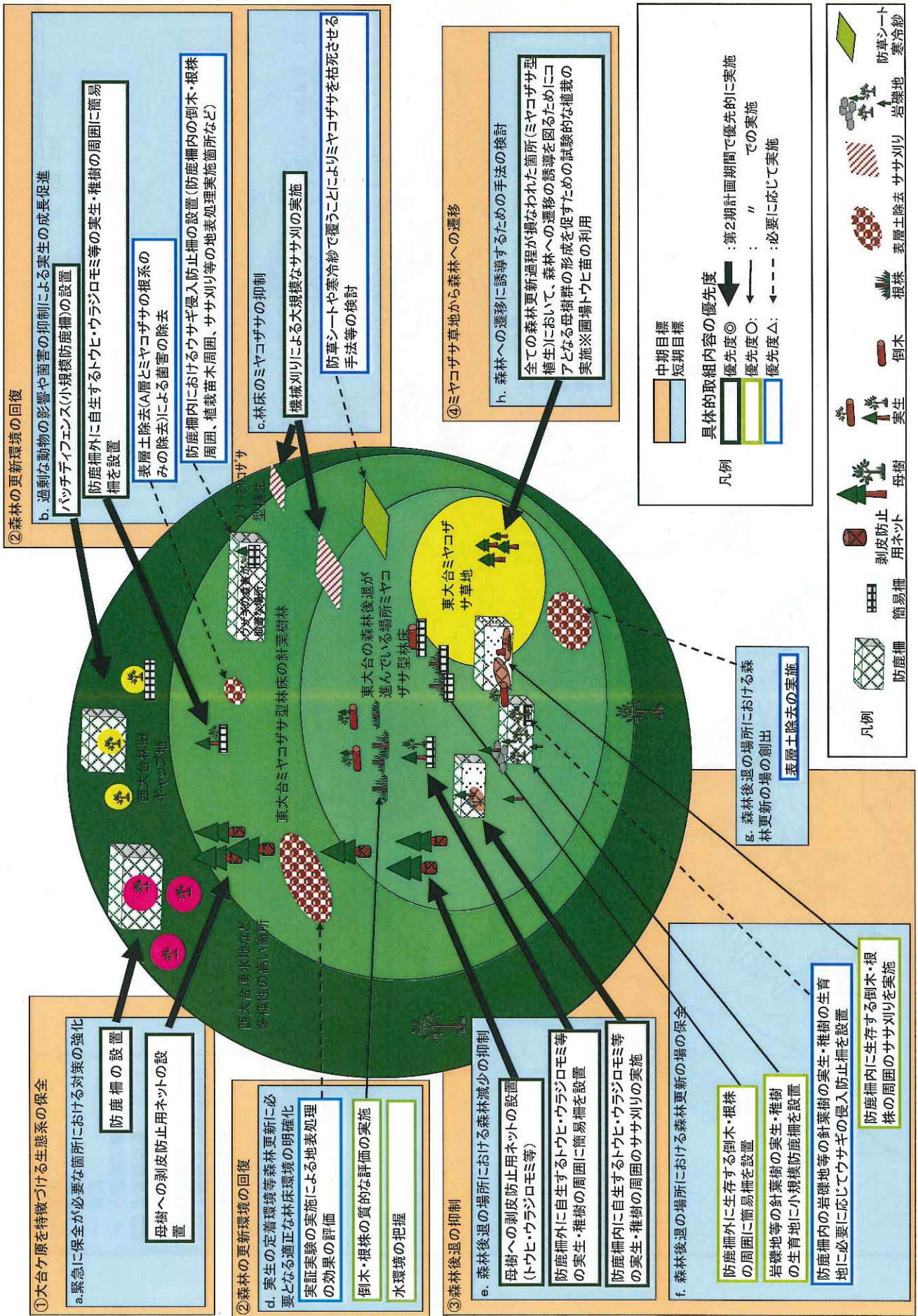
具体的取組内容	短期	実施場所	面積	実施手法	検討課題
4 防鹿柵内外でのササ刈りの実施	c.	<ul style="list-style-type: none"> 防鹿柵No.6周辺(ミヤコザサ草地とトウヒーミヤコザサ型植生の間) 三津河落周辺(ブナ-ミヤコザサ型植生) 	※1ha～2ha	<ul style="list-style-type: none"> 機械刈りによる大規模なミヤコザサの刈り取りの実施(1haの場合:50m×200m/1区画程度) 防鹿柵内外で実施 樹林下とササ地との両方で実施 	<ul style="list-style-type: none"> 具体的取組の前に、ササ刈りの効果を検証するための規模の大きな実験を実施する。 地表の崩落等が発生しない箇所を現地で確認し決定。 モニタリング手法を検討する。

※現地状況に合わせて決定。

西大台

具体的取組内容	短期	実施場所	面積	実施手法	検討課題
5 多様性の保全	a.	湧水地など多様性の高い箇所	—	<ul style="list-style-type: none"> 防鹿柵の設置 	<ul style="list-style-type: none"> 6のパッチデザインフェンスも含めた平成23年度以降の5カ年計画(第3期ニホンジカ保護管理計画)を検討する。 パッチデザインフェンスの有効性、大規模防鹿柵の必要性についての検討結果を示す。 ニホンジカの個体数調整と連携しながら方針を検討する。 柵内と柵外を分け、餌となりうるササの現存量とシカの個体数との関係を考えながら検討する。 歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮について検討する。
6 森林の更新の場の保全	b.	林冠ギャップ地	—	<ul style="list-style-type: none"> パッチデザインフェンスの設置 	<ul style="list-style-type: none"> 保護が必要な林冠ギャップ地の把握については現地調査を踏まえて検討する。 人力でも施工可能な防鹿柵の仕様を検討する。 歩道周辺、利用者からの可視範囲における配慮について検討する。

図3 第2期計画の目標と具体的取組内容(模式図)



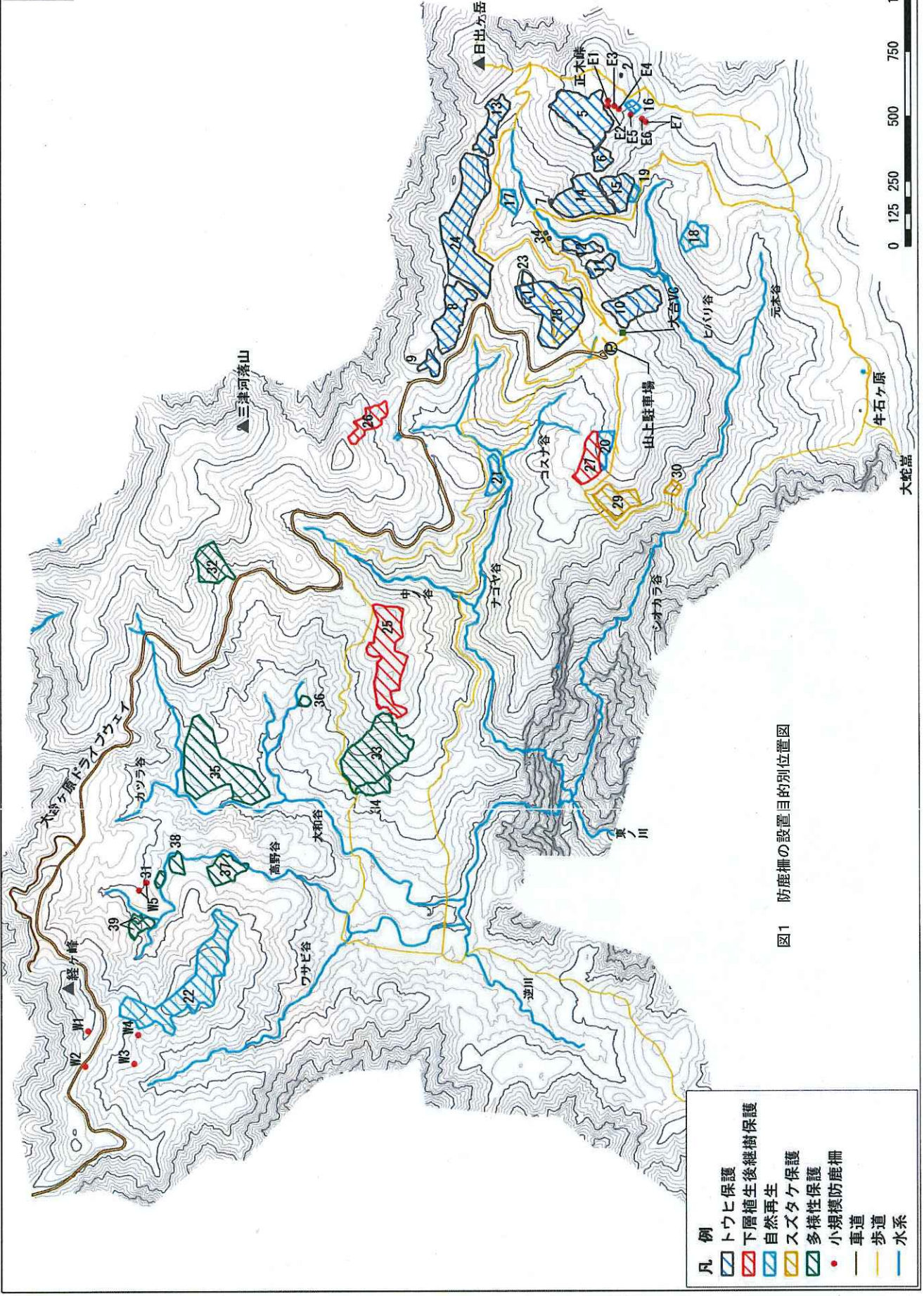


図1 防鹿柵の設置目的別位置図

- 凡例
- トウヒ保護
 - 下層植生後継樹保護
 - 自然再生
 - スズタケ保護
 - 多様性保護
 - 小規模防鹿柵
 - 車道
 - 歩道
 - 水系

防鹿柵の設置概要(平成21年度まで)

現在設置している防鹿柵

番号	設置年度	目的	面積(ha)	構造種別
1	S62・H3	トウヒ保護	0.30	木柱+金網
2	S62	トウヒ保護	0.01	ポリ柱+ポリネット
3	H11	トウヒ保護	0.01	耐雪用格子柵
4	H11	トウヒ保護	0.01	FRP柱+ステンレス入ネット
5	H12	トウヒ保護(タイプⅠ(ミヤコササ:既設))	3.08	耐雪用格子柵
6	H12	トウヒ保護	0.50	耐雪用格子柵
7	H13	トウヒ保護	0.01	FRP柱+ステンレス入ネット
8	H13	トウヒ保護	2.28	耐雪用格子柵
9	H13	トウヒ保護	0.42	耐雪用格子柵
10	H14	トウヒ保護	1.98	FRP柱+ステンレス入ネット
11	H14	トウヒ保護	0.59	FRP柱+ステンレス入ネット
12	H14	トウヒ保護	0.57	FRP柱+ステンレス入ネット
13	H14	トウヒ保護	1.37	FRP柱+ステンレス入ネット
14	H14	トウヒ保護	2.49	FRP柱+ステンレス入ネット
15	H14	トウヒ保護	1.23	FRP柱+ステンレス入ネット
16	H15	自然再生(タイプⅠ(ミヤコササ))	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
17	H15	自然再生(タイプⅡ(トウヒ-ミヤコササ))	0.43	FRP柱+ステンレス入ネット
18	H15	自然再生(タイプⅢ(トウヒ-コケ疎))	0.85	FRP柱+ステンレス入ネット
19	H15	自然再生(タイプⅣ(トウヒ-コケ密))	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
20	H15	自然再生(タイプⅤ(ブナ-ミヤコササ))	0.63	FRP柱+ステンレス入ネット
21	H15	自然再生(タイプⅥ(ブナ-ス'タ密))	0.65	FRP柱+ステンレス入ネット
22	H15	自然再生(タイプⅦ(ブナ-ス'タ疎))	5.62	FRP柱+ステンレス入ネット
23	H15	トウヒ保護	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
24	H15	トウヒ保護	6.02	FRP柱+ステンレス入ネット
25	H16	下層植生後継樹保護	4.00	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
26	H17	下層植生後継樹保護	1.02	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
27	H17	下層植生後継樹保護	1.22	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
28	H17	トウヒ保護	4.26	FRP柱、木柱+ステンレス入ネット
29	H18	スズタケ保護	1.57	FRP柱+ステンレス入ネット
30	H18	スズタケ保護	0.15	FRP柱+ステンレス入ネット
31	H18	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.17	FRP柱+ステンレス入ネット
32	H18	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	1.48	FRP柱+ステンレス入ネット
33	H19	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	4.63	FRP柱+ステンレス入ネット
34	H19	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.85	FRP柱+ステンレス入ネット
35	H20	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	5.99	FRP柱+ステンレス入ネット
36	H20	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.16	FRP柱+ステンレス入ネット
37	H21	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	1.13	FRP柱+ステンレス入ネット
38	H21	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.49	FRP柱+ステンレス入ネット
39	H21	多様性保護(希少種、多様な生息環境)	0.50	FRP柱+ステンレス入ネット
トウヒ保護			25.31	
自然再生			8.52	
下層植生後継樹保護			6.25	
スズタケ保護			1.72	
多様性保護			15.40	
合計			57.20	

平成22年度設置予定

番号	設置年度	目的	面積(ha)	構造種別
小計		トウヒ保護	0.00	
合計			0.00	

撤去した防鹿柵

番号	設置年度	撤去年度	目的	面積(ha)	構造種別	撤去理由
R1	H1	H12	トウヒ保護	0.14	木柱+金網	No.5設置のため
R2	H4	H17	トウヒ保護	0.03	ポリ柱+ポリネット	No.28設置のため
R3	H5	H17	トウヒ保護	0.13	ポリ柱+ポリネット	No.28設置のため
R4	H5	H12	トウヒ保護	0.18	ポリ柱+ポリネット	No.5設置のため
R5	H7・8	H12	トウヒ保護	0.56	ポリ柱+ポリネット	No.5設置のため
R6	H7・8	H12	トウヒ保護	0.78	ポリ柱+ポリネット	No.5設置のため
R7	H8-10	H15	トウヒ保護	7.17	ポリ柱+ポリネット	No.23設置のため
小計			トウヒ保護	9.00		
合計				9.00		